

(行發日五十回一月毎)

月八年五十正大

# 日本公衆保健協会雑誌

第2卷 第8號

## 目次

### 卷頭言

偶感妄語

### 論說

促進汚泥法に依る下水の處分に就て

吉

崎本謙三

### 沖縄縣瘡患者數に關する一考察

家坂幸三郎

### 演講

旅日記より(其の一)

飯村保三

### 談叢

統計

### 資料

國際衛生技術官交換會議概況(八)・朝鮮滿洲に於ける國際衛生技術官交換會議狀況(七)・技術官交換會議・紹介

### 統計

傳染病患者發生表・密賈淫人員及健康診斷調

### 時評

日本の公衆衛生教育・ラ氏のお世辭・海外視察・夏期大學

### 彙報

大分縣に於ける狂犬病豫防の現況と將來の計畫・岩手縣紫波郡德田村に於ける妊娠婦保護施設の大要・愛知縣通信・其他數項

日本

振替口座

東京市神田區美士代

東京基督教青年會

## 沖繩縣癩患者數に關する一考察



### 講演

沖繩縣衛生技師 家坂幸三郎

大正十四年十一月十六日日本全國一齊に行われた内務省の所謂癩患者數調査の結果に依り、沖繩縣は最高位の刻印を捺せられた、則ち千分比にして沖繩縣一・六七最低位千葉埼玉の〇・〇〇四六、日本全國平均〇・二五八である、(千分比の人口は大正十四年十月一日國勢調査に據つたものである)。

調査の結果增加縣と減少縣とあつて、沖繩縣は大正八年三月調査五百四十一人より一躍九百三十五人となつた、その他著明なる增加縣は、

東京。 二六〇 (前回に比し増加)

福岡

一一七 (同)

群馬 四二五 (同)

沖繩

三九四 (同)

香川 一三八 (同)

以下略之

同じく增加といふ、併し沖縄縣の増加と他府縣とソレとの間には多少の差異があると思ふ、東京の如き大都會に療養所の關係は別としても乞食やその他浮浪の徒の群集し来るは怪むに足らぬ、群馬や香川の如きは、他國の癩患者が憧憬し慕ひ来る幾許かの理由を有してゐる、獨り沖縄縣に至つては往昔は知らず、現在に於て、かゝる絶海の孤島に癩患者の移動し來るもの絶無と謂つて可なりである、從て三百九十四名の増加は、沖縄縣と見ることが出来る。

一齊調査の結果たる九百三十五名は、全部警察官の摘發に係るものと謂つて可なりで、本縣に於ては、癩豫防法に依り醫師は之を届出づべき筈なるに、從來醫師の癩患者を届出でしもの皆無の有様である、又縣技術官が積極的に踏み込むで、摘發した所もない、只一部分彼等警察官の報告を確むるために検診したことはある、一齊調査といふも、中には一二年内に検診調査した箇處は、先年の分で御茶を濁すといふ連中もあるうと思ふ。則ち此沖縄縣の所謂癩患者總數九百三十五名といふ數字は、正確なものでない事は多言を要せぬ事である、然らば沖縄にはドレ程の癩患者がある見ることが出来る。

るであろうかとは興味ある問題である。

今大正十四年十一月十六日一齊調査の結果に就き、各警察署の管内人口に比し癩患者の千分比を見るに、那霸署の〇・六一首里署の一・〇八が最低率にして、宮古署の三・三六、名護署(國頭郡)三・〇四八重山署二・三九で離島就中宮古郡の如きは、最高率であつて、本縣全體に涉る千分比は一・六七である、此數は國勢調査(大正十四年十月一日)の人口と相比したものであるから正確であると思ふ。

宮古郡の如き警察官の摘發した數だけでも、三・三六%を示してゐる、その他如何程の癩患者があるであらうか、事の次第に依りてはこの儀に濟まされないのは勿論である。

保健衛生調査會第五回報告書中内務省の算出法に従ひ、沖縄縣の癩患者總數を算出せば則ち内務省の所謂壯丁癩患者總數と警察官發見壯丁癩患者數との比一・六二といふ系數が假りに適用できるものとすれば、之を九百三十五人に乘じて一千五百十四人七分となる。

内務技師村田氏の癩壯丁患者總數算出法は、更に一段の精細を極めたもので、氏の方法に従ひば三・一三となる、ソレで今内務省の執つた計算法を許すならば、本縣の癩患者は二千九百二十六人となる。

私は潛越乍ら本誌第一卷三號に於て沖縄縣の癩豫防に就て演べた時に(大正十四年十月稿)本縣各警察署の臺帳面大正十一年九月末現在五百四十五名とはあるが、諸種の事情を綜合して考覈するに、優に千五百を突破し得と信ずと述べておいた、此千五百といふ數字は内務省の算出法に依る數字に偶然にも近似して來たが、併し眞意は「少くとも」の意味であつて「である」といふのでなかつた。

丁度時も時折も、私共は内務省癩患者一齊調査と相前後して則ち大正十四年十一月九日より約一ヶ月の豫定を以て、本縣國頭郡東村五ヶ字(大正十四年十月一日國勢調査の結果人口三千〇九十九人)を寄生蟲驅除班と相提携して巡回診療の名の下に、健康状態視察及び衛生指導と出掛けた譯であつた、病者といふ病者は一人も残らず狩り出す意氣込みで、東西六里南北一里餘の馬も通わぬ断崖峻壁を登攀して全周二回被検査人員中一六六二名の患者を見た、只憾むらくば軒別に訪問したのでなく、無料診察及施療といふ好餌を以て病者を釣つた事であつたから、科學的厳格さで全村を観たとはいへまいけれど、推定法など、異り、現場に於て私共の肉眼と顯微鏡を通して科學的常識を加味して考覈したのであるから何等かの確實性を持つものであると信ずる。

右の患者中九名の癩患者を發見した、

一、班紋癩 男、農 S. T. 二十二歳(?)

壯丁検査に合格し入營すること、なり居れるもの

二、神經癩 男、農 K. K. 二十歳 六、班紋癩 男 M. N. 十二歳

三、神經癩 男、農 S. N. 二十歳 七、結節癩 男 K. K. 九歳

四、班紋癩 女、農 N. G. 二十歳 八、神經癩 男 K. S. 五十七歳

五、班紋癩 女 T. S. 二十八歳 九、班紋癩 男 M. A. 三十六歳

此等九名の癩患者は、着衣のまゝの望診位では辺もわからない、象皮病と合併したり、湿疹や膿瘍の影にかくれておるし、患者の訴ふる處も十中の八九、その合併症に就てである。警察官や一般の人が見て癩と分るやうなものは、私共の診療班を訪問しないといふ事がわかつた、則ち十一月十六日癩患者一齊調査に東村受持の駐在受持巡査の検舉し得た癩患者は五名であつて、私共のものとは、全然異つてゐる、左の如くである。

一、癩 男、十歳 痢居出なし

二、同 女、二十八歳 同

三、同 女、三十三歳 同

四、癩 女、三十七歳 痢居出なし

五、同 男、二十九歳 同

ア、巡回の調査であるから癩型は分からぬし、病症の程度や合併症の有無は分からぬが、場所が明瞭であるので、私共のものとは、全然異つてゐるものである、して見ると、東村には今癩患者が、十四名あつて巡回の發見率は約三五%癩患者二・八に比して一人の割合である。

此東村の人口三千〇九十九人中に五名の癩患者(巡回の發見に係る)は丁度一・六%に當るから、本村の癩患者率一・六七%に該當する、本村の癩患者率は縣を代表するものと謂つて宜いと思ふ。

557622

若し本村の癩患者率が縣を代表するものとせば、本縣の總人口を東村の人口にて除した商に、一四を乗すれば二五二〇となる、此二千五百二十一人が本縣の癩患者總數となる譯である。

此數の過小か過大かといふ事は、昨年一齊調査の結果の本縣の癩患者總數九百三十五人に就き、東村巡回發見率に依り算出するに二千六百十八人となる、大差のないといふ事が分る、甚だ「ぐろーぶ」な方法ではあるが、大體の見當はつき得ると思ふ。

現在する沖繩縣の癩患者總數二千五六百と見る事の當不當を論考するのに村田内務技師の信據すべき統計的觀察がある。

村田氏法は大正八年日本全國二十歳以上二十一歳未満の男子の癩患者數一八四(警察官調査)を以て、同年警察の調査による全國癩患者總數一・六二六二に對する百分比を出し、而して氏の算出法に依る壯丁癩患者總數五七五・七八名から逆に全國癩患者總數五・〇九五四を得る事になるといふ事が基礎になつて、各府縣の十五ヶ年間癩による壯丁不合格者一ヶ年平均總數に對する%に應じて各府縣に割當て見ると、四・八%となる沖繩縣は

六萬三千といふ大正十三年の推定癩患者總數からして三〇二四人はあるであらうといふ議論である。

大正十三年沖繩縣の現在總人口五五七三五に對して千分比五・二四となる譯である、大正十四年十月一日國勢調査の結果は本縣人口五五六二二であるから、癩患者總數は三千〇三十三人となる。

私共の調査の結果も結局村田内務技師の主張を確めたに過ぎないものであろう、ソレは、私共の發見した癩患者は軒別に診た譯でないので、從て二千五六百といふ數字は内輪に見積つた事になるので、今一人多く發見しても系數は $\frac{5}{15} = 33\%$ となり、村田氏率の31に近似して來るのであるからである。

最後に一言附加して見たいのは、全體を通じて村田内務技師の算出法は申分ないのであります、一寸考へねばならぬのは、大正八年警察官の調査に係る日本全國の癩患者數一・六二六二人の中二十歳以上二十一歳未満の男子は一八四名即ち一・三%になつてゐる關係から、村田氏算出法に依る壯丁癩患者總數五七五・七八名に就き、逆に全國癩患者總數を出すといふ事、一見御尤至極ではあるがソコに聊か疑義を生じはしないかとおもふ、何となれば、壯丁時代の發生率と死亡率とその後癩患者の生存年齢七十五歳までの發生死亡率とは大に異なるのであるから、偶然得た系數の一・之を以て逆に癩患者總數を計測するといふ事が、ソコに幾分か科學的精確を缺きはしないか、換言すれば、ソコから得た數字が少しは過失になりはせぬかとおもふ、併し大差のない事は私共の調査事實がコレを證明してゐるから、村田氏算出法の他により科學的正確の方法があり得まいことは、斷言するに憚からぬ。

### 結論

沖繩縣は現在二千五六百以上三千人の癩患者のある事は最早動かすことの出來ぬ事實である、餘談ではあるが、今沖繩縣は財政疲弊を叫ばる、時代である、而も產業立國のモットーを掲げて、この方面に精進しやうといふのである、產業立國勿論結構である、が併し衛生を無視した産業立國は砂上の樓閣であるとおもふ、三千の癩患者之に日本全數の結核全死亡者中毎年約一〇%の結核死ある沖繩、思ふだに戰慄を禁じ得ない、沖繩を救ふものは、微々たる金錢にあらずして、民族衛生から改善に進むがその最捷徑であるとおもふ。(大正十五年四月十五日稿)



Vol. II.

August, 1926

No. 8.

THE JOURNAL  
OF THE  
PUBLIC HEALTH ASSOCIATION OF JAPAN

CONTENTS

- Sewage Disposal by Activated Sludge Process.....  
By DR. Y. YOSHIMOTO and DR. K. NAGASAKI
- Current Topics.  
*(The following articles are printed in Japanese.)*
- Studies on the Number of Lepers in Okinawa Prefecture.....  
By DR. K. IISAKA.
- From My Diary of Foreign Journey..... By DR. Y. IIMURA.
- Interchange Study Tour of Foreign Medical Officers of Health in Japan  
(8).
- Interchange Study Tour of Foreign Medical Officers of Health in Chosen  
and Manchuria (7).
- Statistics of Infectious Diseases in Japan.
- Statistics of Secret Prostitutes and their Health Condition.
- Miscellaneous.

PUBLISHED MONTHLY

by the

Public Health Association of Japan

国立療養所 長島愛生園